

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.225

2012年2月

ベトナムで日本法教育研究センター開所式等を挙

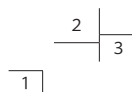


目次

| | |
|--|----|
| ●ニュース | |
| ベトナムで日本法教育研究センター開所式等を挙 | 3 |
| 豊田講堂「登録有形文化財」への登録等記念式典を挙 | 4 |
| 本学を当番校として7国立大学長会議を開催 | 6 |
| 第3回エコ大学ランキングで総合第1位を獲得 | 6 |
| 大学入試センター試験が実施される | 7 |
| 第3回アカデミーサロン特別記念講座を開催 | 7 |
| ●知の先端 | |
| 肝細胞の空間と時間と機能、そして食事のタイミング（時間栄養学） | 8 |
| 小田 裕昭（大学院生命農学研究科准教授） | |
| ●知の未来へ | |
| 再利用可能なソフトウェア開発経験の発見と活用 | 10 |
| 小林 隆志（大学院情報科学研究科准教授） | |
| ●部局ニュース | |
| 国際シンポジウム「脳の設計図を解く」を開催 | 11 |
| 第4回医学・バイオ系知財フェアを開催 | 11 |
| 平成23年度オープンシンポジウムを開催 | 12 |
| 第4回おもしろ科学教室を開催 | 12 |
| 農林水産・食品産業新技術開発フェア2011 in 東海を開催 | 13 |
| 先端研究施設共用促進事業連携シンポジウムを開催 | 13 |
| 公開講演会「宇宙から海を観る・測る」を開催 | 14 |
| 第24回年代測定総合研究センターシンポジウムを開催 | 14 |
| 第1回次世代自動車公開シンポジウムを開催 | 15 |
| 減災連携研究センターシンポジウムを開催 | 15 |
| 進化にふれるハンズオン・ギャラリー「進化と学術標本」を開催 | 16 |
| 第43回博物館コンサートを開催 | 16 |
| ミクロの探検隊を開催 | 17 |
| ●名大を表敬訪問された方々 | 18 |
| ●新たに締結した学術交流協定 | 18 |
| ●構成員を対象とした研修 | 19 |
| ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年12月15日～平成24年1月15日 | 20 |
| ●INFORMATION | |
| 平成23年度定年退職教授等の最終講義日程 | 23 |
| ●イベントカレンダー | 25 |
| ●ちよつと名大史 | |
| 第11代総長 松尾 稔 <small>まつお みのる</small> 一名大をひきいた人びと⑩ー | 28 |

ベトナムで日本法教育研究センター開所式等を挙





- 1 記念撮影
- 2 ホーチミン市法科大学における日本法教育研究センター開所式の様子
- 3 ベトナム国家大学ハノイとの学術交流協定締結式の様子



ホーチミン市法科大学における日本法教育研究センター開所式及びベトナム国家大学ハノイとの大学間学術交流協定等締結式が、それぞれ1月7日(土)、6日(金)に、ベトナムにおいて挙行されました。

日本法教育研究センター (Research and Education Center for Japanese Law : CJL) は、日本語及び日本法を理解する専門家を組織的かつ継続的に養成し、各国の法情報研究の拠点として機能することを目的とし、平成17年、ウズベキスタンタシケントに初めて開所しました。その後モンゴルウランバートル、ベトナムハノイ、カンボジアプノンペンに順次設立しており、今回ホーチミン市法科大学との連携のもと開所したCJLは、ベトナムではハノイに続いて2つ目となります。CJLホーチミンは、既存のCJLと異なり、ホーチミン市法科大学がイニシアティブを取る新しい形態で運営されます。

7日(土)に挙行された開所式では、ホーチミン市法科大学及び本学関係者のほか、チャン・フオンベトナム教育訓練省ホーチミン代表事務所副所長、CJLプノンペンのあるカンボジア王立法経大学のユーク・ゴイ学長、

那須泰孝ホーチミン日本商工会会長らが出席し、マイ・ホン・クイホーチミン市法科大学長、濱口総長による主催者あいさつ、チャン副所長、ゴイ学長による来賓あいさつ、クイ学長、鮎京法学研究科長によるCJLホーチミンに関する覚書の締結等が行われました。同日夜に行われた開所記念パーティーには、ホーチミンに出張していた中川正春前文部科学大臣も出席し、これまでのCJLの活動に対する評価とCJLホーチミンに対する期待及び学生達への激励の言葉を述べました。

また6日(金)には、ベトナム国家大学ハノイとの大学間学術交流協定及び学生交換に関する覚書の締結式を行いました。ベトナム国家大学ハノイからはマイ・チョン・ニュアン学長をはじめ関係部局長らが、本学からは総長、佐分理事、鮎京法学研究科長、成田国際開発研究科長、木村多元数理科学研究科長、市橋法政国際教育協力研究センター長らが出席して協定書の締結を

行い、今後の交流促進について意見交換を行いました。

5日(木)には、レ・タイン・ロン全学同窓会ベトナム支部長が昨年ベトナム司法省副大臣に就任したことを祝し、総長をはじめ本学関係者ほか、ベトナム支部会員、鈴木秀夫在ベトナム日本国大使館公使、佐藤哲也同館書記官、ダオ・チ・ウックベトナム国家大学ハノイ理事ら約60名の参加を得て祝賀会が催されました。

さらに、総長らは4日間の滞在中、ファム・チ・クオンベトナム教育訓練省国際協力局審議官への表敬訪問を行ったほか、ハノイ法科大学及びCJLベトナムを訪問して今後の交流について意見交換を行うとともに、CJLベトナムの学生達の日本語による活動報告を聞きました。

豊田講堂「登録有形文化財」への登録等記念式典を挙行



名誉博士記を手にした横氏（左）と総長（右）

豊田講堂「登録有形文化財」への登録及び「BELCA 賞」受賞記念式典が、1月12日（木）、豊田講堂において挙行されました。これは豊田講堂が、昨年、国の「登録有形文化財」に登録され、さらに、ロングライフビル推進協会（BELCA）が選定・表彰を行う「BELCA 賞（ベストリフォーム部門）」を受賞したことを記念したものです。

豊田講堂は、昭和35年、トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）より、教育の振興と科学の発展の一助となることを目的に寄贈されたもので、本学のシンボルとして広く親しまれています。また、平成19年にはトヨタ自動車株式会社及びトヨタグループ各社からの寄附を受け、原設計者の横文彦株式会社横総合計画事務所代表取締役によって全面改修・増築されました。

当日は、豊田章一郎トヨタ自動車株式会社名誉会長、横氏、今井秀明愛知県教育委員会教育長を招き、まず豊田講堂ロビーにおいて登録記念プレートの除幕式を行い、次の

でホールにおいて記念式典を挙行しました。

式典では、濱口総長が主催者あいさつを、豊田名誉会長が来賓あいさつを行った後、谷口施設計画推進室長が「豊田講堂の登録有形文化財と BELCA 賞受賞の意義」と題して解説し、続いて横氏が「西方への旅とその半世紀後」と題して記念講演を行いました。

横氏は記念講演で、豊田講堂を設計するに至った経緯に始まり、建物を正面から見た形がキャンパスの顔となるよう「門」をイメージして作ったこと、日本で最初の作品であった豊田講堂への熱い思い、自らが歩んできた半世紀の道のり、平成19年の豊田講堂再生まで、自身と本学との深い関わりについて話をしました。さらに、今後建築界を担っていく学生から多数の質問があり、これに対し横氏から、学生への励ましの言葉とともに、建築に取り組む姿勢についての示唆を含めた丁寧な回答がありました。今も絶えず目の前のものにチャレンジする横氏の思いが感じられ



登録記念プレート除幕式の様子



記念撮影

る講演となりました。

会場には地域の設計事務所を始めとした建築・建設業界関係者、本学及び東海地方の学生・教職員など700名を越す来場者があり、大変盛況となりました。

また、記念式典の前には、楨氏への名誉博士の称号授与式が、総長応接室において挙行されました。これは、日本を代表するモダニズム建築の一つとして高く評価されるとともに、本学の象徴として歴史を重ねてきた豊田講堂を設計した楨氏の功績を顕彰するものです。

楨氏は、昭和27年に東京大学工学部建築学科を卒業後アメリカ合衆国へ留学し、ワシントン大学準教授、ハーバード大学準教授を経て、帰国後の昭和40年に株式会社楨総合計画事務所を設立しました。その後昭和54年から平成元年までの間、東京大学教授として教育・研究に携わり、現在は同社代表取締役を務めています。プリッカー賞、アメリカ建築家協会ゴールドメダルをはじめ国内外の賞を多数受



会場の様子

賞しており、モダニズムの思想を受け継ぎ、土地の特性を生かして奥庭や路地など日本的空間を織り込んだ作品で知られる、日本を代表する建築家の一人です。

名誉博士称号授与式では、総長から、豊田講堂は本学の自由闊達な学風を象徴する精神的支柱であるとも言え、本学の教育・研究の進展に資する施設であると同時に、学術文化の向上に寄与することを目的として利用されていることから、本学の今後の発展を考えると、豊田講堂なしでは語れないとの言葉がありました。

本学は今後も、豊田講堂の象徴する「永遠のモダン」、常に時代の最先端を目指す志を大切に継承していきたいと考えます。



来賓あいさつをする豊田名誉会長



記念講演をする楨氏

本学を当番校として7国立大学長会議を開催

7国立大学長会議が、1月11日(水)、名古屋市内のホテルにおいて、本学を当番大学として開催されました

会議には、大学側から北海道大、東北大、東京大、京都大、大阪大、九州大、本学の各学長が出席し、文部科学省から板東久美子高等教育局長、芦立 訓同国立大学法人支援課長、吉田大輔研究振興局長、澤川和宏同局学術機関課



会議の様子

長、清木孝悦大臣官房文教施設企画部長、山下 治同部計画課長が出席しました。

議事に先立ち当番大学である本学の濱口総長からあいさつがあった後、文部科学省から平成24年度予算案の重点項目、国立大学の改革推進、教育研究力強化及び施設整備等に関する施策について説明がありました。これに関連して7大学の各学長から、国立大学を取り巻く厳しい状況について積極的な発言があるなど、活発な意見交換が行われました。

続いて、3つの協議事項（高等教育・科学技術政策の今後の在り方、秋季入学・ギャップイヤー、大学の国際化への取り組み）について、7大学長が各大学の現状等を説明した後、文部科学省関係官も交えて、更に活発に意見が交わされました。

最後に、東京大学が次期当番大学であることを確認し、会議を終了しました。

第3回エコ大学ランキングで総合第1位を獲得

本学が、第3回エコ大学ランキングにおいて、全国総合第1位を獲得しました。

同ランキングは、環境NGOエコ・リーグ（全国青年環境連盟）が実施している「全国大学環境対策実施状況一斉調査2011」の調査結果をもとに決定されたもので、アンケート調査において有効回答を提出した全国167大学法人



記念撮影

が評価対象となりました。

本学は前回のランキングでは総合第5位でしたが、今回の調査対象であった2010年において、猛暑日が続く中、設備の更新や運用改善などによりエネルギー消費量を大幅に削減できたことが高評価を得て、学生数1万人以上の大規模大学として初めての総合第1位（国公立区分別順位：国公立部門第1位、大学規模別順位：大規模大学部門第1位、セクション別順位：環境マネジメント第1位、小カテゴリ別順位：他大学の担当者に参考にされている大学第1位など）を獲得しました。

表彰式は、12月17日(土)、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2011」の会場内で行われました。当日は、施設・設備担当の藤井理事が表彰状を、情報文化学部2年生で環境サークルに所属している服部将典さんがトロフィーを受け取り、山口参事が、本学が取り組んでいる地球環境保全や省エネルギーのための活動について紹介しました。

大学入試センター試験が実施される

—本学関係会場で約7,000名が受験—

平成24年度大学入試センター試験が、1月14日(土)、15日(日)の2日間、全国709会場で実施され、本学関係では東山キャンパスや学外の高等学校など合計8会場で約7,000名が受験しました。今年度の大学入試センター試験の全国志願者数は、前年度より3,447名(0.6%減)減り555,537名となりました。



試験に臨む受験者

試験1日目は、午前8時すぎにはコートやマフラーで身を包んだ受験者が会場に集まり始め、参考書やノートで最終チェックをしたり、友人との会話でリラックスするなどして、各々の方法で試験に備えていました。また東山キャンパスでは、高校毎に集合し、教師から激励を受けて健闘を誓う受験者の姿が見られ、8時30分の入室開始と同時に次々と試験室へ入室しました。

今回の大学入試センター試験は、前年度と受験科目の申請方法、試験実施方法などが変更されましたが、予定どおり試験が実施されました。例年、同試験の実施日には小雪が舞うなどの天気になることが多いのですが、今年は多少の冷えこみはあったものの穏やかな晴天になりました。

期間中、濱口総長と高橋事務局長が各試験場を訪問し、試験場主任及び教職員をねぎらいました。

なお、本学の前期日程試験は、2月25日(土)及び26日(日)に、後期日程試験(医学部医学科)については、3月12日(月)に実施されます。

第3回アカデミーサロン特別記念講座を開催

第3回アカデミーサロン ES 総合館オープン記念第2弾特別記念講座「CP 対称性とは？」が、12月27日(火)、ES 総合館において、独立行政法人科学技術振興機構との共催で開催されました。

同講座は、高等研究院アカデミー会員が次世代の若者等に直接「世界最高知」や「有識者の見識」を伝える企画と



ランチョン・フォーラムの様子

して、定期的にも実施している高等研究院アカデミーサロンシリーズとして開催しており、3回目となる今回は、抽選で選ばれた高校生・大学生計20名が参加しました。

初めに、同院アカデミー会員である益川敏英本学特別教授が、参加者と一緒に昼食をとりながら自由に議論する「ランチョン・フォーラム」を実施しました。益川特別教授は、参加者に「自由な発想」の重要性を語り、英語学習や留学の大切さについても助言しました。また、「物理学ではまだまだ分からないことが多いので、ぜひ参入してほしい」との期待を述べました。

続いて、青木保道素粒子宇宙起源研究機構准教授が「対称性と素粒子」と題して、CP 対称性について分かりやすく講義しました。その後参加者は、大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 N 研究室及び F 研究室で行われている素粒子に関わる実験の風景を見学しました。最後に、近藤高等研究院長から参加者へ、益川特別教授の直筆サイン入り修了書が授与されました。

参加者からは、「一人ひとりの質問に丁寧に答えてくれるとは思ってなくて大変よかった」といった感想が寄せられました。

肝細胞の空間と時間と機能、そして食事のタイミング (時間栄養学)

小田 裕昭 大学院生命農学研究科准教授

毎日の食事で食べたものは、小腸で吸収された後、ほとんど一度肝臓に入り、再分配されます。肝臓は、代謝の中心臓器として、栄養素の代謝を一手に引き受けています。普段飲むアルコールや薬の薬物代謝もほとんど肝臓が行います。そのため、メタボリックシンドロームや生活習慣病などの代謝疾患では肝臓は主要な役割を演じているだけでなく、創薬における安全性試験では肝臓薬物代謝はとても重要になります。ところが、肝臓を構成する肝細胞は、いったん肝臓から分離して培養すると、急激にその機能を失ってしまいます。またその寿命も極端に短くなってしまいます。この謎を解くのが、私の研究の大きなテーマになっています。

肝細胞は肝小葉という構造にぎゅうぎゅうに詰め込まれているため、かなり球形に近い細胞形態になっています (平均的に十三面体)。この球形に近い肝細胞を体から取り出して培養するとき、通常の他の細胞と同様に平べったい単層で培養さ

れます。ところが、この平べったい肝細胞では、肝臓で作られる血清アルブミンの遺伝子の転写が培養後24時間後には検出できなくなってしまいます。様々な工夫がなされてきましたが、私たちは細胞外マトリクス (注1) に注目をして研究を行いました。紆余曲折を経て、最終的に肝細胞を立体的な3次元培養させると肝機能を維持できることがわかりました。1つの肝細胞が平べったいか、丸いかで肝細胞の機能が劇的に変わることがわかりました。

ヒトの肝細胞研究では、株化された樹立肝細胞株が使われます。しかし、その機能は肝臓と比べてとても低いため、研究用としては使われても安全性試験など実用目的には使えるレベルにありません。その上よく使われる樹立肝細胞株 (例えばHepG2) は3次元培養にตอบสนองして肝機能を上げることはありませんでした。私たちは、日本人から樹立されたFLC-4細胞が、3次元培養にตอบสนองして肝機能が高くなることを見つけました。元々肝機

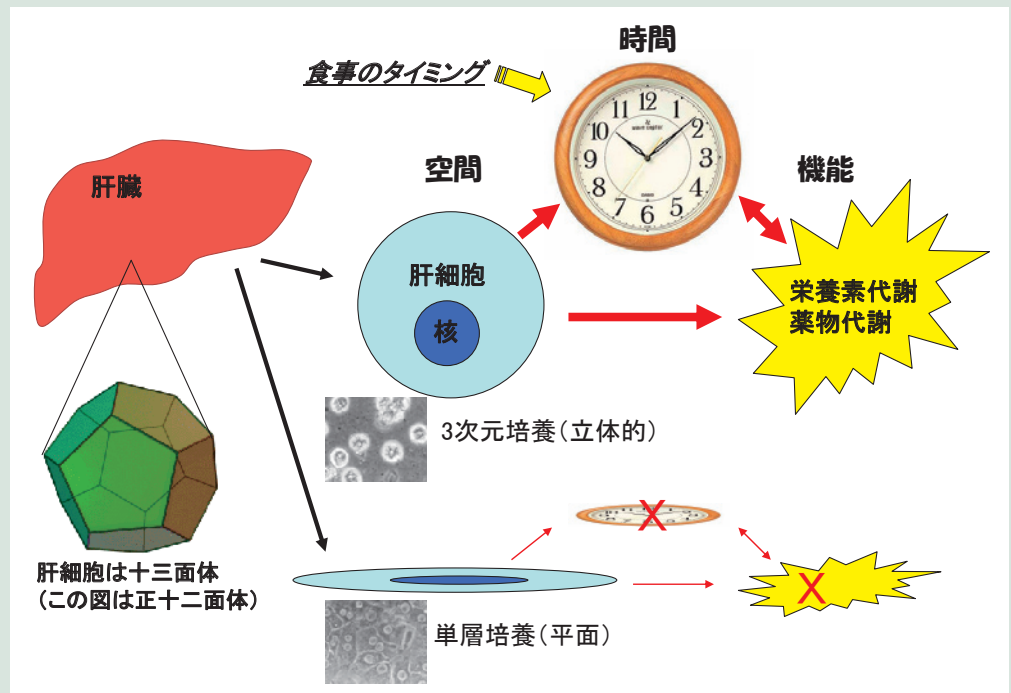


図 肝細胞の空間的形態による肝細胞の概日時間と肝機能の制御
肝臓の中では、肝細胞は十三面体ぐらいですが、それに近い3次元の球形で培養すると、肝臓時計が回り、肝機能が高く維持されます。平べったい単層培養では、時計が止まり、機能が下がってしまいます。食事のタイミングは、肝臓時計を調節します。不規則な食生活では、肝臓時計が狂ってしまい、代謝にも異常が生じます。

能が高かったため、ヒト肝臓の肝機能を比較できるレベルまで上げることに初めて成功しました。薬物代謝などは人種差が大きいことも知られていますので、日本人由来の高機能な肝細胞は、今後の応用が期待されます。この細胞を使って、人工肝臓(人工肝臓補助システム)を作ろうとプロジェクトにも参画させてもらい、研究を進めています。なかなかハードルは高く、長期的視野でがんばろうとしています。

肝細胞が、本来肝臓にいるときと同じような形態、つまり球形になると肝機能が維持されるメカニズムについて調べてみました。丸い細胞形態は、微小管という細胞の骨格を作るタンパク質を介して、核にその情報が伝わるようです。核では、ある種の肝臓特異的転写因子(注2)の転写が促進されて、それがDNA結合活性を維持して核に保持されていることがわかりました。しかし、細胞の空間的形態が機能を変えるメカニズムの研究は、まだスタート台に立ったばかりです。

私たちの身体は、地球の自転に合わせた24時間の概日時計というものを持っています。肝臓も肝臓時計を持っていて、肝細胞1つ1つがそれぞれ時計を持っています。肝臓から取り出した肝細胞は、取り出す前の時計を記憶していて、24時間のリズムを刻みます。ところが、平べったい肝細胞では、時計が数日で止まってしまいました。一方、丸い肝細胞では、肝細胞時計が回り続けました。肝細胞の形態という空間的なあり様が、肝細胞の時間を制御するということがわかりました。

肝細胞の空間的あり様は、肝細胞の時間を制御し、機能も制御することが明らかになりましたが、身体の中にはどのような意味を持つのか考えてみました。肝臓に障害が起きると、そこでは

肝細胞の形態が変化して、肝機能が下がって、時計が止まってしまう可能性があります。障害でも起きない限り肝細胞の形が変わることはそう滅多におきないと思われませんが、肝臓の時計が狂ってしまうことは起こりうることだと考えられます。普段肝臓の時計は脳の時計に支配されています。食事のタイミングの方が肝臓時計を強く制御しています。食事のタイミングが乱れると、肝臓の時計が乱れます。その結果、代謝が正常に行われなくなり、代謝的疾患が起こります。私たちの研究では、乱れた摂食タイミングでは、同じ食事を同じ量食べていても、肝臓の時計が乱れ、その結果血中コレステロール値が上昇してしまいました。昔から、「規則正しい食生活は、健康維持に欠かせない」といわれていたことを遺伝子レベルで明らかにすることができました。食事のタイミングは、私たちが思ってきた以上に健康に重要だということがわかりました。身体によいといわれる食品より、決まった時間に食べるの方が健康の秘訣かもしれません。肝臓時計は食事の中でも朝食によって強く制御されています。これらの研究からも朝食の重要性が再確認されました。

高い機能を持った肝細胞を体外でも長生きさせて人工肝臓ができるまでには、まだ時間がかかるかもしれませんが、現在培養細胞にリズムを与えるリズム培養法などチャレンジしています。規則正しい食生活で肝臓時計を正常化して、代謝疾患である生活習慣病を予防しましょう。

注1) 細胞間に存在するタンパク質。コラーゲンやラミニンなど。

注2) 転写因子の中で、肝臓らしさ(分化)を決定する因子。HNF-4など。

1983年 名古屋大学農学部農芸化学科卒業
1987年 名古屋大学大学院農学研究科博士課程(後期課程)中途退学
1987年 名古屋大学農学部助手
1991年 農学博士取得(名古屋大学)
1991年~1992年 米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学医学部客員助教授
1997年 名古屋大学農学部助教授 現在に至る
ひとこと サイエンスとアートがコラボしたような研究がいいな。ピカソの絵画のようなサイエンスをしたい。
趣味 サッカー、馬、アート、クラシック、ロック

おだ ひろあき



小林 隆志
大学院情報科学研究科准教授

再利用可能なソフトウェア開発経験の発見と活用

情報処理推進機構などの統計によれば、近年のソフトウェア開発事例の多くは、新規開発でなく既存のソフトウェア資産を改良する事例であり、既存のソフトウェアに対して不具合の修正や機能追加を行う保守・進化工程への支援が求められています。

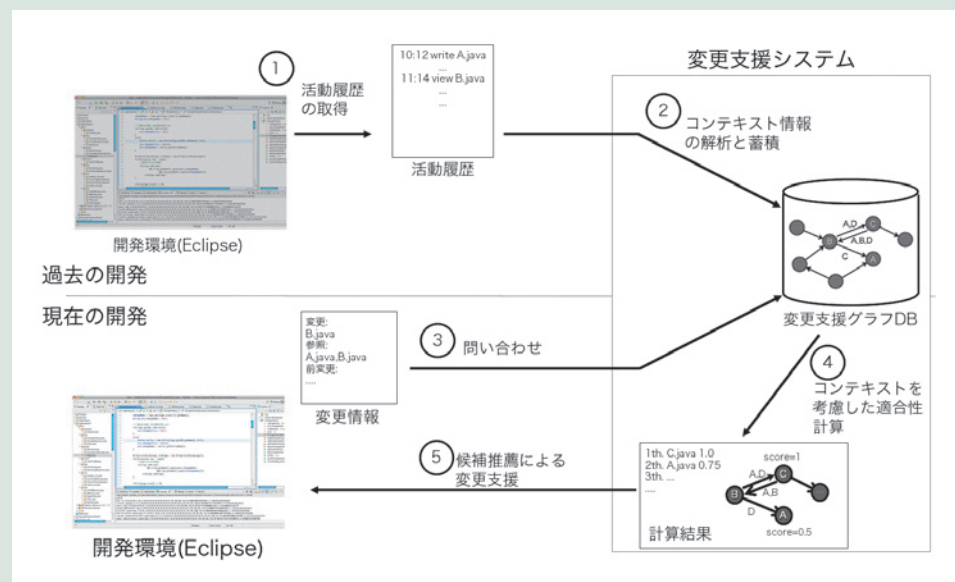
ソフトウェアは内部に複雑な依存関係を持つため、保守・進化工程でソフトウェアを修正・拡張する際には、ある変更がソフトウェア全体に及ぼす影響範囲を解析する波及解析を慎重に行い、適切な変更を加える必要があります。現在のソフトウェアは、個人が全てを把握することが非常に困難な規模であるうえに、修正・拡張作業は作成した開発者とは別の開発者が担当することも多く、この波及解析に膨大な労力を必要とします。

プログラム解析技術を利用して正確な波及解析を行う手法では大規模なソフトウェアに対応できないため、開発者が過去に行った開発履歴を用いた手法が提案され始めています。これらの手法は、ソフトウェアの改版履歴から開発者の開発活動履歴を取得しデータマイニング技術を応用して解析することで、過去の活動から再利用可能なソフトウェア開発経験を抽出します。

これらの手法は、大規模な開発にも適用可能であり一定の効果があることが報告されていますが、版管理システムの履歴を用いるため記録されている情報の粒度が荒いという問題点があります。我々はこの点を改善する新しい手法を提案しています。

我々の手法では、開発者の活動履歴をより詳細に蓄積し、成果物に対する書き込みと参照のアクセス履歴を用います。これらの詳細な履歴を利用することで、変更の間に参照された成果物や、変更の順序といった変更のコンテキストを取得することを可能としています。取得したコンテキスト情報を利用して変更伝搬予測モデルを作成することで、開発者が行った成果物に対する変更に対し、その変更に至った経緯を考慮して次に変更が必要となる成果物を推薦します。

これまでに、コンテキスト情報を考慮することで推薦精度が向上することを被験者実験により確認しています。今後はより多くの種類の活動を履歴として蓄積し、多くのコンテキストを利用できる支援手法の開発を目指します。

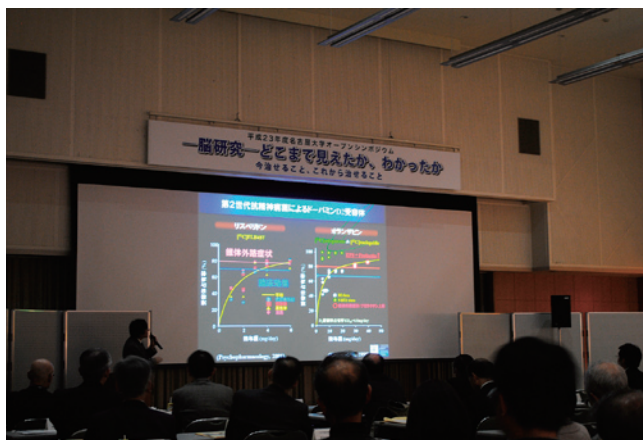


平成23年度オープンシンポジウムを開催

●大学院医学系研究科

大学院医学系研究科脳とこころの研究センターは、1月13日(金)、シンポジウムホールにおいて、平成23年度オープンシンポジウム「脳研究—どこまで見えたか、わかったか」を開催しました。

同センターは、昨年10月に大学院医学系研究科が中心となって、脳とこころの疾患の克服を目指して創設されたも



講演の様子

のです。

シンポジウムでは、濱口総長及び同センター長である宮田理事のあいさつに始まり、DVDによる同センターの概要紹介が行われた後、柿木隆介自然科学研究機構生理学研究所教授が「脳は不思議がいっぱい！痛みと痒みの脳内認知機構はどうなっているのか」、尾崎紀夫医学系研究科教授が「車の運転と脳—薬や加齢は脳を介して運転技能にどのような影響を与えるか—」、祖父江医学系研究科長が「認知症：どう予防し、どう治すのか」、須原哲也放射線医学総合研究所分子イメージング研究センタープログラムリーダーが「薬は脳のどこに効くのか」と題してそれぞれ最新の脳研究について講演しました。

会場には、一般の方々や、連携施設・連携企業等からの参加者約400名が集まり、最後まで熱心に聴き入っていました。

なおシンポジウムの前には、同センターの創設記念式典が豊田講堂第1会議室において開催され、連携施設・連携企業、行政機関等から約100名が参加しました。

第4回おもしろ科学教室を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科は、1月9日(月)、IB電子情報館大講義室において、豊田工業高等専門学校、核融合科学研究所、応用物理学会等との共催で、第4回おもしろ科学教室を開催しました。同行事は、学会・協会等との連携により次世代を担う青少年及びその保護者に対して科学技術への理解増進を図り、優れた人材の教育・育成を行うことを目



サイエンスショーの様子

的としており、平成23年度地域貢献特別支援事業に採択されています。

まず第1部として、岡島茂樹中部大学工学部教授によるサイエンスショー「実験で見る自然科学における逆さ(反対)の世界」が行われ、次に第2部として、各共催学会・協会による「超伝導時期浮上列車」、「放射線を測ろう」等の展示の見学、及び日本弁理士会東海支部による電子紙芝居「『発明』、『特許』ってなあに？—パン職人レオ君物語—」が行われました。

続いて第3部として、小・中学生を対象とした実験工作教室「作って考えよう！電子カラクリ」、「にじ色ボックスを作ろう！」、「不思議な世界、エレキ万華鏡を作ろう！」、及び無線体験教室「電波でおにごっこ、キツネを探せ！」が開催されました。

小・中学生200名、保護者を含め、総勢300名が参加し、大変盛況でした。参加者は、普段見ることの出来ないショーや展示の見学、実験工作等を楽しんでいる様子でした。

農林水産・食品産業新技術開発フェア2011 in 東海を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科は、12月19日(月)、20日(火)の両日、野依記念学術交流館において、アグリビジネス創出産学官・農商工連携「農林水産・食品産業新技術開発フェア2011 in 東海」を開催しました。同行事は、農林水産・食品産業分野における技術開発とその実用化の取り組みを、産学官・農商工の連携により一層効果的に推進するために、



パネル展示の様子

服部生命農学研究科長が理事長を務める NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会及び農林水産省との共催で開催したものです。

基調講演では、生源寺眞一生命農学研究科教授が「世界の食料・日本の農業」と題し、日本農業の半世紀を振り返りつつ、潮目が変わった国際環境の中で今後の日本農業の活路を探るという視点から講演しました。

続いて、竹谷裕之産学官連携推進本部特任教授、石本佳之一般社団法人名古屋コーチン協会常務理事による特別講演が行われました。また、産学官連携研究成果や、農山漁村の6次産業化の推進に関わる事例の発表等もありました。

また1階会議室及びロビーでは、研究成果・新商品開発・市場開拓などアグリビジネス創出に繋がるパネル展示、技術相談会があり、大勢の参加者との意見交換が行われました。

先端研究施設共用促進事業連携シンポジウムを開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、1月18日(水)、野依記念学術交流館において、先端研究施設共用促進事業連携シンポジウム「復興と新生のための科学技術支援と産学官連携促進」を開催しました。

同シンポジウムは、大学・独立行政法人等の研究機関等が保有する先端研究施設の共用を促進し、科学技術活動全

般の高度化と国の研究開発投資の効率化を図ることを目的に文部科学省が行っている「文部科学省先端研究施設共用促進事業」に採択されている30機関のうち、6大学の機関(京都大学エネルギー理工学研究所、大阪大学レーザーエネルギー学研究中心、東京理科大学赤外自由電子レーザー研究センター、東北大学エネルギー安全科学国際研究センター、名古屋工業大学大型設備基盤センター、本学エコトピア科学研究所)が連携し、本学が幹事となって開催したものです。

まず、木村晃彦京都大学エネルギー理工学研究所教授より6大学連携の趣旨説明があり、柿田恭良文部科学省研究振興局基盤研究課長による基調講演「科学技術イノベーション政策の展開と研究開発プラットフォームの形成について」、庄子哲雄東北大学エネルギー安全科学国際センター卓越教授による特別講演「震災からの復興に向けてー長期展望に立った東北地区の問題と産学連携」をはじめ、各大学からプロジェクト概要の説明及び利用企業による成果報告が行われました。今後の復興新生に向けて、先端設備を保有する大学が産業界をどのように支援できるかを中心に、活発な討論が展開されました。



柿田基盤研究課長による基調講演の様子

公開講演会「宇宙から海を観る・測る」を開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、1月7日(土)、シンポジオンホールにおいて、公開講演会「宇宙から海を観る・測る」を開催しました。海洋の物理・化学・生物現象を題材に、宇宙からのリモートセンシング観測によって得られた最新の知見について、学内外の4人の講師が講演を行いました。



講演会の様子

まず、江淵直人北海道大学低温科学研究所教授が「海と大気の相互作用を測る」と題した講演を行い、水温・塩分・海上風・熱フラックスなど、大気海洋の相互作用の研究のために利用されている様々なセンサーとその原理について話しました。

続いて、森本昭彦同センター准教授が「海流を測る」と題した講演を行い、海面高度計を用いて海流を測定する手法について説明し、特に東シナ海と日本海で行われている研究について紹介しました。

次に、石坂丞二同センター教授が「プランクトンを観る」と題した講演を行い、炭素循環の研究や沿岸環境モニタリングなどにおいて、海の色を用いた植物プランクトンの分布の観測が重要であることを示しました。

最後に、齊藤誠一北海道大学水産科学研究院教授が「魚を観る」と題した講演を行い、水温・海色など様々なりモートセンシングデータを利用して漁場を探索し、迅速に船上の漁業者に配信するシステムを紹介しました。

会場には94名が来場し、各講演において活発な質疑が行われました。

第24回年代測定総合研究センターシンポジウムを開催

●年代測定総合研究センター

年代測定総合研究センターは、1月12日(木)、13日(金)の両日、野依記念学术交流館カンファレンスホールにおいて、第24回年代測定総合研究センターシンポジウムを開催しました。同センターは、学内外を問わず、地球誕生から現代にいたる年代範囲をカバーする年代学研究、放射性炭素C-14トレーサーを用いる環境炭素動態研究に関する共

同研究に貢献しています。

シンポジウムでは、初めに、同センターの年代測定設備に関する平成23年の現状と利用を概観した後、本学のほか東京大、岐阜大、静岡大、東北大、富山大、奈良大、福岡大、東海大などの研究者による共同利用研究の成果として、環境学、地質学、考古学、文化財科学、人類学などの分野に関する口頭発表30件、ポスター発表11件が行われました。

続いて、今年3月に退職する予定の鈴木和博同センター教授が30年近く開発、応用研究に従事した微小領域地質年代測定法であるCHIME年代測定法について、今村峯雄元国立歴史民俗博物館教授がC-14を用いる高精度年代測定の考古学における様々な応用研究と展望について、西山要一奈良大学文学部教授が海外フィールドワークとして精力的に従事しているレバノン共和国所在のローマ時代城壁地下墓の調査と修復の研究成果について、特別講演をしました。

シンポジウムには、研究者、学生、一般の方など合わせて89名の参加があり、活発な質疑応答、意見交換が行われました。シンポジウムの内容は、業績報告書として3月中に刊行される予定です。



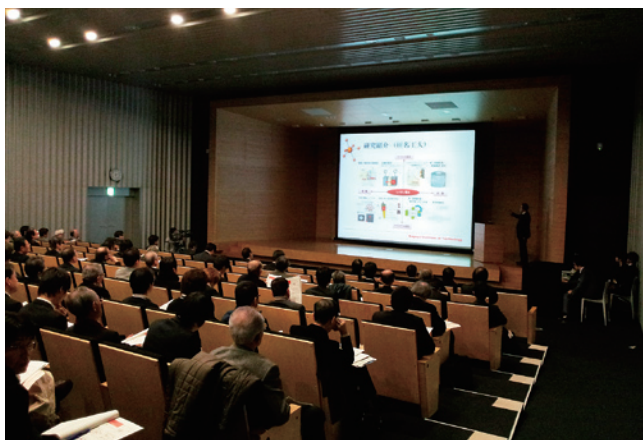
特別講演の様子

第1回次世代自動車公開シンポジウムを開催

●グリーンモビリティ連携研究センター

グリーンモビリティ連携研究センターは、1月10日(火)、野依記念学术交流館カンファレンスホールにおいて、第1回次世代自動車公開シンポジウム「次世代電池技術の深化をめざして」を開催しました。

このシンポジウムは、経済産業省中部経済産業局の次世代自動車地域産学官フォーラム事業と連携し、次世代電池



講演の様子

技術の現状と最新動向を紹介するとともに、議論を通して技術を深化させる足がかりを得ることを目的としており、東海地域の企業、公益法人、大学の関係者など150名が参加しました。

同センター長である宮田理事の主催者あいさつで始まったシンポジウムでは、佐藤 登サムスンSDI株式会社常務、入山恭寿工学研究科教授、中山将伸名古屋工業大学工学研究科准教授、齋藤永宏同センター教授、松見紀佳北陸先端科学技術大学院大学教授及び射場英紀トヨタ自動車株式会社電池研究部部長から最新の研究発表があり、参加者との意見交換が活発に行われました。最後に齋藤教授からあいさつがあり、盛況のうち閉会しました。

その後会場を移して交流会が行われ、参加者の間で懇親が深められました。

同センターは、引き続き、3月12日(月)に第2回シンポジウム「超軽量化技術の深化をめざして」を、3月21日(水)に第3回シンポジウム「次世代自動車材料研究の地域間連携をめざして」を開催する予定です。

減災連携研究センターシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、1月6日(金)、ES総合館ESホールにおいて、減災連携研究センターシンポジウム「これからの減災を考える～人と街をまもる連携研究をめざして～」を開催しました。

同シンポジウムは、今年1月より同センターが学内共同教育研究施設として発足したことを記念して開催されたも



集団討論で発言する福和センター長

ので、藤井理事のあいさつの後、福和減災連携研究センター長が今後同センターがめざす方向性等について説明しました。

続いて第1部として、「減災への提言、連携研究に望むこと」をテーマに、いずれもセンターの客員教授である岡村行信産業技術総合研究所活断層・地震研究センター長、金田義行海洋研究開発機構地震津波・防災研究プロジェクトリーダー、斉藤大樹建築研究所国際地震工学センター上席研究員、富田孝史港湾空港技術研究所アジア・太平洋沿岸防災研究センター上席研究官、藤原広行防災科学技術研究所社会防災システム研究領域長による講演が行われ、最新の研究成果等が報告されました。

第2部では、同センター客員教授である隈本邦彦江戸川大学教授をコーディネーターとして、第1部の登壇者や、福和センター長、会場の同センター兼任教員及び行政や企業、メディア、地域の方々が討論を行い、今後の同センターの活動に望むこと等について発言がありました。

会場には約180名の方がつめかけ、同センターに対する期待が感じられました。より良い組織構築に向けた提言を多く受けることができ、有意義なシンポジウムとなりました。

進化にふれるハンズオン・ギャラリー「進化と学術標本」を開催

●博物館

博物館は、12月17日(土)、同館講義室において、進化にふれるハンズオン・ギャラリー「進化と学術標本」を開催しました。ハンズオン・ギャラリーとは、普段はガラスケース越しでしか見ることのできない学術標本を、来館者が手に取り間近で観察できるようにして、研究者と会話しながら博物標本への興味や理解を深める社会教育活動です。



動物の骨格標本を手に取り観察する参加者

進化をテーマとした今回は、ギャラリー1「骨から探る動物の形の進化」、ギャラリー2「ともに歩んできた植物と虫」、ギャラリー3「考古標本から暮らしの変化を探る」の3つの展示ユニットを設け、動物、古生物、昆虫、植物、考古、人類学といった幅広い分野の標本を用意し、それに関わる研究の紹介を行いました。具体的には、オオウナギやアナグマ、ニホンザル、ニホンジカ、トビの骨格や、恐竜の骨格モデル、ギフチョウやカンアオイの標本、南米・西アジア・アフリカの土器・石器などの標本を参加者が手に取って観察し、その研究についての解説を受けました。

50名を超える参加者には小学校低学年から成人まで幅広い年齢層が含まれ、標本の身近な観察から生まれた様々な関心や質問に7名の解説員が応えました。

ハンズオン・ギャラリーは、多様な展示標本と研究内容を紹介するために、東京大学総合研究博物館の教員・研究員と共同で企画・実施し、同様の活動を昨年7月に東京でも行いました。このように、博物館は大学博物館等協議会の会長校として、大学博物館間の連携を推進しています。

第43回博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、12月17日(土)、同館展示室において、第43回博物館コンサート「ジャズでつづるクリスマス」を開催しました。

今回は、長谷川智則氏を中心に、本学軽音楽部エーデルレーテ・ジャズオーケストラのOBと東海地方のライブハウスなどで活躍するミュージシャンとで結成したバンド



コンサートの様子

が、ジャズを演奏しました。

「A列車で行こう」の演奏から始まったコンサートでは、アンコール曲を含め全11曲が約1時間にわたって演奏されました。3階の回廊までも埋め尽くした250名の来場者は、軽快につづられるジャズを楽しみ満足した様子で、「ありがとう」「楽しかった」「また来たい」等の感想が多数寄せられました。

博物館は、今後もこのような地域貢献事業を続け、博物館を身近に感じる契機としてもらいたいと考えています。

なお、次回の博物館コンサートは、「現代の博物画ーボタニカルアート作品展」の関連イベントとして、2月18日(土)午後2時より、カルテットフリーセントによる弦楽四重奏「早春の音楽会」を開催する予定です。

ミクロの探検隊を開催

●博物館

博物館は、12月23日(金)、ミクロの探検隊「ミクロの世界をのぞいて放散虫の進化に触れよう！」を開催しました。

ミクロの探検隊は、博物館が平成19年から行っている電子顕微鏡を利用した体験型次世代教育で、参加者の中心は小学5、6年生と中学生です。中には複数回にわたって参加する方もいますが、リピーターの方が飽きないよう複数



電子顕微鏡で放散虫を観察する参加者

種のプログラムを用意することで、内容に変化をもたせています。

今回は、木曾川の岸(鶴沼)で採集された「放散虫」というプランクトンの化石を材料とし、大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター分析機器部門と株式会社日立ハイテクノロジーズの協力を得て開催しました。

当日はまず、砂粒のような放散虫を実体顕微鏡下で選別し、次に、選別した放散虫を電子顕微鏡の試料台にのせ、自ら電子顕微鏡を操作して観察、撮影を行いました。参加者は、電子顕微鏡ではっきり写し出される放散虫の形の多様性に驚き、その美しさに引き込まれている様子でした。

また、水谷伸治郎本学名誉教授から、どんな太古の小さな放散虫にも種類ごとに学名や番号がつけられているとの説明があり、電子顕微鏡で撮影した放散虫の名前を調べて、最後にポストカードも作りました。

参加者にとっては、冬休みの良い思い出となったようでした。

名大を表敬訪問された方々 [平成23年10月16日～平成24年1月15日]

| 日付 | 国/地域 | 訪問者 | 目的 |
|--------|---------|--|--|
| 10月20日 | ベトナム | ハノイ農業大学よりチャン・ドゥック・ヴィエン学長ほか4名、計画投資省よりグエン・ホアン・リン国際協力局日本担当部長、教育訓練省よりダム・ヒエウ・タン財務局投資計画部長ほか1名 | 表敬あいさつ並びに JICA プロジェクトで使用する最新機器の運営管理方法の協議・確認及び連携の深化 |
| 10月24日 | アフガニスタン | アフガニスタン高等教育省よりバライ・シディキ副大臣 | 表敬あいさつ及び JICA プロジェクトの日本側受入大学の視察及び日本の大学事情の調査 |
| 10月27日 | モンゴル | モンゴル科学技術大学地質石油工学部鉱物資源学科より講師2名、学生8名 | 同年6月に富山大学、モンゴル科学技術大学、ジオ・コミュニケーション及び本学間で締結された協定書に基づく実習のため来学 |
| 10月28日 | サウジアラビア | サルマーン・ビン・アブドゥルアジーズ大学よりアブドゥルラーマン・アルヘドハイリ副学長ほか5名、サウジアラビア大使館文化部よりイサム・ブカーリ文化アタッシュェほか1名 | 表敬あいさつ及び協力関係構築に関する意見交換 |
| 11月2日 | ベトナム | タイバック大学よりダン・クアン・ヴィエット学長ほか4名 | JICA プロジェクトの研修のため来学、表敬あいさつ |
| 11月24日 | 韓国 | 外交通商部外交安保研究院中国研究センターより辛正承所長ほか1名、外交通商部よりキム・ジワン書記官、駐名古屋大韓民国総領事館よりイ・ジョンチル副総領事 | 表敬あいさつ及び意見交換 |
| 11月25日 | アメリカ | 米国大使館よりジョン・ルース大使夫妻ほか1名、在名古屋米国領事館よりハリー・サリバン首席領事ほか3名 | 表敬あいさつ及び学生との討論会 |
| 11月25日 | ロシア | クラスノヤルスク国立教育大学よりニコライ・ドロズドフ学長ほか3名、シベリア連邦大学よりマリーナ・ロマエヴァ日本文化センター長ほか1名、クラスノヤルスク市よりヴァシリー・クイーモフ市長補佐役、日本とロシアの友好親善を進める愛知の会より片桐清高会長ほか3名 | 表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換 |
| 12月6日 | 中国 | 南京大学より周憲学長補佐ほか7名 | 高等研究院との意見交換及び施設視察 |
| 12月10日 | 中国 | 南京大学海外教育学院より呂浩雪副院長ほか2名、江蘇省より張煥發国際文化交流センター副秘書長ほか2名 | 中国語スピーチコンテストの共催及び意見交換 |
| 12月13日 | 中国 | ハルビン工業大学より周玉副学長ほか7名 | 学術交流に関する意見交換及び視察 |
| 12月15日 | ウズベキスタン | 司法省よりカニャーゾフ・エセムラット・スルタムラトビッチ第一副大臣ほか6名、大統領府よりイスタモフ・マフムド・シュクラトビッチ上級検査官 | JICA 国別研修の一環で来学 |

新たに締結した学術交流協定 [平成23年10月16日～平成24年1月15日]

大学間学術交流協定

| 締結日 | 地域/国名 | 大学/研究機関名 |
|------|-------|-------------|
| 1月6日 | ベトナム | ベトナム国家大学ハノイ |

部局間学術交流協定

| 締結日 | 地域/国名 | 大学/研究機関名 | 部局名 |
|--------|-------|------------------------------|---------------------|
| 10月10日 | 中国 | 中国衛生部中日友好病院 | 医学部 |
| 10月10日 | タイ | キングモンククツ工科大学北バンコク校科学技術研究所 | エコトピア科学研究所 |
| 10月18日 | インド | インド工科大学デリー校 | エコトピア科学研究所 |
| 10月21日 | 中国 | 中山大学嶺南(大学)学院 | 大学院経済学研究科及び経済学部 |
| 11月25日 | 中国 | 北京師範大学減災応急管理学院・地表過程資源生態重点研究所 | 大学院環境学研究科及び大学院工学研究科 |

構成員を対象とした研修 [平成23年10月16日～平成24年1月15日]

| 実施日 | 研修名 | 目的 | 参加人数 |
|------------------------------------|--|--|---------|
| 10月17日(木) | 平成23年度愛知地区国立大学法人等退職準備セミナー | 定年等退職予定者に、退職後の生活設計に必要な知識を提供することにより、今後の社会生活、家庭生活の基盤づくりに役立てる。 | 97名 |
| 11月10日(木) | 平成23年度メンタルヘルス講習会セルフケアセミナー | セルフケアの考え方を理解し、ストレスへの気づきと対処法を身につけ、日常生活での実践につなげる。 | 77名 |
| 11月10日(木) | 第68回特許基礎セミナー | 特許出願が未経験で、今後出願したい、特許出願に興味を持っている、あるいは出願経験はあるが再確認をしたい教職員、研究者、大学院生等を対象とし、基礎知識講義と特許調査演習を通して特許の基礎を学ぶ。 | 7名 |
| 11月10日(木) | 平成23年度メンタルヘルス講習会ラインケアセミナー | ラインケアの基礎知識を理解するとともに、ラインケアを行うための管理監督者の責任と役割を認識し、日常的に行うべき部下への対応を理解する。 | 31名 |
| 11月17日(木)、 12月16日(金) | 平成23年度個人情報保護管理者研修 | 個人情報保護管理者に対し、保有個人情報の適正な管理について知識を身につけさせることにより、本学における保有個人情報の適正な取扱いを実施し、漏えい等を防止する。 | 24名 |
| 11月21日(月) | 平成23年度国際業務トレーニング研修 「大学職員のための異文化コミュニケーションセミナー」 | 異なる文化を持つ留学生・外国人研究者へ適切に対応するための心構えを知り、異文化間でのコミュニケーションスキルの習得を目指す。 | 28名 |
| 11月29日(火) | パワー・ハラスメント防止研修 (一般教職員向け(病院版)) | 名古屋大学のパワー・ハラスメントに対する防止体制と病院の事情に特化したパワー・ハラスメントに関する基礎知識を理解することを目的とする。 | 63名 |
| 12月1日(木)、 2日(金)、 5日(月)～7日(水) | 平成23年度(後期)医療安全・院内感染対策・医薬品安全使用研修 | 医療法により病院管理者に定期開催が義務付けられている、従業者に対する研修であり、業務遂行上の技能やチームの一員としての意識向上を図る。 | 約2,500名 |
| 12月5日(月) | パワー・ハラスメント防止研修 (一般教職員向け) | 名古屋大学のパワー・ハラスメントに対する防止体制とパワー・ハラスメントに関する基礎知識を理解することを目的とする。 | 38名 |
| 12月12日(月) | パワー・ハラスメント防止研修 (管理者向け) | パワー・ハラスメント防止に必要な知識や管理者としてのマネジメントスキルを修得することを目的とする。 | 45名 |
| 12月13日(火) | 平成23年度個人情報保護に関する教育研修会 | 保有個人情報を取り扱う職員に対し、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることにより、本学における保有個人情報の適正な取扱いの実施と漏えい等の防止を図る。 | 70名 |
| 12月13日(火) | 第13回教務学生事務担当者実務研修 | 教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより、事務能率の向上を図る。 | 49名 |
| 1月6日(金) | 平成23年度鶴舞地区メンタルヘルス講習会 | 教職員の安全衛生の観点から、昨今増え続けている「こころの病」とその対応について理解いただき、少しでも「こころの病」から守ることを目的とする。 | 約170名 |
| 1月11日(水)、 12日(木) | 平成23年度国際業務トレーニング研修 「効果的な英文Eメールの書き方セミナー」 | 現在の英語力で、理解しやすかつ説得力のある英文Eメールを短時間で作成するためのライティングスキル習得を目指す。 | 31名 |
| 1月12日(木) | 平成23年度第1回大学院医学系研究科生命倫理講習会 | 臨床研究(医学研究)を医の倫理の立場から、より適切に計画、実施していくための知識を得ることを目的とする。 | 95名 |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年12月15日～平成24年1月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|--|------------------------|--------------------------|
| 1 家森信善経済学研究科教授が呼びかけた「東海地域の課題を考える産官学懇談会」が15日に開催された | 12.16 (金) | 中日 (朝刊) |
| 2 中野俊詩理学研究科助教らの研究グループは線虫を使い細胞分裂の仕組みの一端を解明 | 12.16 (金) 12.19 (月) | 中日 (朝刊) 日刊工業 |
| 3 小松雅宏教養教育院准教授は「超光速素粒子ニュートリノの公表は関係分野にさらなる精査を求めるため」と語る | 12.16 (金) | 日刊工業 |
| 4 本学と東北大学は中国と韓国の4大学と単位互換協定を結ぶ | 12.16 (金) | 日刊工業 |
| 5 豊田講堂「登録有形文化財」への登録および「BELCA 賞」受賞記念式典開催：1月12日 建築家・槇 文彦氏記念講演「西方への旅とその半世紀後」 | 12.16 (金) 1.13 (金) | 読売 他3社 |
| 6 朝日カルチャーセンター ルネッサンスの象徴を読み解く 画像学入門Ⅱ：1月13日～ 鈴木繁夫国際言語文化研究科教授 | 12.16 (金) | 朝日 (朝刊) |
| 7 理学研究科長に篠原久典同教授が選出される | 12.17 (土) | 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊) |
| 8 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：16日「科学の魅力、復興の力」をテーマに野 依良治本学特別教授らが講演 | 12.17 (土) 12.27 (火) | 読売 読売 |
| 9 松井康素氏本学卒業生は『『ロコモティブシンドローム』を止めるために無理なく適度に筋肉トレーニングを心がけましょう』と語る | 12.17 (土) | 中日 (朝刊) |
| 10 小川 光経済学研究科教授は原発に頼らない自治体運営について「地域の自立が求められる。特徴を生かし生き延びる道を探らなくてはならない」と語る | 12.18 (日) | 中日 (朝刊) |
| 11 天野 浩工学研究科教授はLEDの効率改善について「理論的には1ワットあたり180ルーメンまで可能」と語る | 12.18 (日) | 日経 (朝刊) |
| 12 中東正文法学研究科教授のゼミは2011年10月「日経 TEST 学生団体対抗戦」ゼミ部門において1位を獲得する | 12.18 (日) | 日経 (朝刊) |
| 13 文化勲章受章記念講演会が17日に開催され赤崎 勇本学特別教授が「コバルトブルーに魅せられて」をテーマに講演した | 12.18 (日) | 毎日 (朝刊) 他2社 |
| 14 本学の学部生、大学院生、教職員有志でつくる内部被曝問題研究会が17日、放射能汚染についての映画上映会とシンポジウム「私たちの放射能汚染」を開催した | 12.18 (日) | 中日 (朝刊) |
| 15 現代日本誤百科 (542)：最後に「別れ」をする 町田 健文学研究科教授 | 12.19 (月) | 中日 (朝刊) |
| 16 本学はレアアースの研究と資源開発をめざしモンゴルとの連携を進める | 12.19 (月) | 朝日 (朝刊) |
| 17 本学など6大学は大学の大規模実験施設の民間企業による利用を促す事業で連携する | 12.19 (月) | 日刊工業 |
| 18 名大カフェ “Science, and Me” 第18回「地球外で生命は生まれるか？－宇宙が語る生命の起源－」開催：1月11日 | 12.19 (月) 1. 8 (日) | 読売 中日 (朝刊) |
| 19 医療と健康：川村正彦氏本学卒業生は低身長について解説する | 12.19 (月) | 中日 (朝刊) |
| 20 春名幹男国際言語文化研究科特任教授は北朝鮮情勢について崩壊の危機を迎えるが中国が介入するだろうと語る | 12.19 (月) | 中日 (夕刊) |
| 21 伊丹健一郎理学研究科教授らの研究グループはピアリアル化合物を効率的に合成する新しいクロスカップリング反応を開発 | 12.20 (火) | 日刊工業 |
| 22 現代日本誤百科 (543)：「防災システムに自信がない」町田 健文学研究科教授 | 12.20 (火) | 中日 (朝刊) |
| 23 本学ギターマンドリンクラブ第54回定期演奏会開催：28日 | 12.20 (火) | 中日 (朝刊) |
| 24 教えて！ドクター：三ツ口由紀子氏元医学部附属病院医師 | 12.20 (火) | 中日 (朝刊) |
| 25 現代日本誤百科 (544)：「後出しじゃんけん」町田 健文学研究科教授 | 12.21 (水) | 中日 (朝刊) |
| 26 林 良敬環境医学研究所准教授らの研究グループは血糖値をあげるタンパク質「グルカゴン」にアミノ酸を燃やしてエネルギーにする働きがあることを解明 | 12.21 (水) | 中日 (夕刊) |
| 27 篠原久典理学研究科教授は中日新聞夕刊コラム「紙つぶて」を1月から執筆する | 12.21 (水) | 中日 (夕刊) |
| 28 現代日本誤百科 (545)：市が「ホームレスを撤去」町田 健文学研究科教授 | 12.22 (木) | 中日 (朝刊) |
| 29 京都産業大学益川塾第2回シンポジウム「科学と社会」開催：1月7日 益川敏英本学特別教授が山中伸弥京都大学教授と対談 | 12.22 (木) 1. 8 (日) | 読売 日経 (朝刊) 中日 (朝刊) |
| 30 防災心「揺れ」の怖さ：耐震化を自分の問題に 福和伸夫減災連携研究センター教授 | 12.22 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 31 日経・健康・医療プロジェクト「抗体医薬品と医療の未来－関節リウマチ克服への挑戦－」をテーマに石黒直樹医学系研究科教授が語る | 12.22 (木) | 日経 (朝刊) |
| 32 本学など東海地域の大学における研究成果有体物のリストを名古屋産業科学研究所が作成し、研究成果有体物の有効利用を図る | 12.22 (木) | 日刊工業 |
| 33 2011年産業界10大ニュースに番外編として本学などの国際研究チームにより確認されたニュートリノの超光速現象がとりあげられる | 12.22 (木) | 日刊工業 |
| 34 木村彰吾経済学研究科長、前島正義生命農学研究科長、藤川清史国際開発研究科長、田中信夫工コトピア科学研究科長を選出、木村芳文多元数理科学研究科長、池上康男総合保健体育科学センター長の再任を決定 | 12.22 (木) | 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) |
| 35 日経実力病院調査 がん治療体制 医学部附属病院ががん患者の合計が1700人以上のがん拠点病院としてリストアップされる | 12.22 (木) | 日経 (夕刊) |
| 36 小川 光経済学研究科教授は名古屋市の市民税減税について「経済効果は期待できない」と語る | 12.23 (土) | 日経 (朝刊) |
| 37 関 隆広工学研究科教授は本学と東北大学との関係について語る | 12.23 (土) | 日刊工業 |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年12月15日～平成24年1月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|--|---|--------------------------------|
| 38 「アジア No.1航空宇宙産業クラスター形成特区」が国際戦略総合特区に指定され本学などとの協議会を設け3月をめどに計画を策定する | 12.23 (土) | 中日 (朝刊) 日経 (朝刊) |
| 39 博物館企画展「奈良坂源一郎『蟲魚圖譜』—解剖学創始者のミュージアム」が取り上げられる | 12.23 (土) | 読売 |
| 40 小林 誠本学特別教授、益川敏英同特別教授、下村 脩同特別教授のノーベル賞受賞が過去5年のニュース2008年トップ3の3位に選ばれる | 12.23 (金) | 読売 |
| 41 平成23年度脳とこころの研究センターオープンシンポジウム「脳研究—どこまで見えたか、わかったか—今治せること、これから治せること」開催：13日 祖父江 元医学系研究科教授、尾崎紀夫同教授らが講演 | 12.23 (金) 1. 6 (金) 1.13 (木) 1.14 (金) | 読売 中日 (朝刊) 読売 中日 (朝刊) |
| 42 数理ウェーブ開催：24日 すごい約分、「折りたたみ」からみえてくるスウガク | 12.23 (金) | 中日 (朝刊) |
| 43 依田 憲環境学研究科准教授はウミネコが震災後は自活していることを調査 | 12.24 (土) | 朝日 (夕刊) |
| 44 水谷法美工学研究科教授は衣浦港地震・津波対策検討会議第1回会議の座長を務めた | 12.24 (土) | 中日 (朝刊) |
| 45 藤田耕史環境学研究科准教授は所属する共同研究グループが南極内陸部の平均積雪量の増加をつきとめたことについて「南極の地上データを『線』にできたことが重要」と語る | 12.25 (日) | 日経 (朝刊) |
| 46 赤崎 勇本学特別教授が青色LEDの開発者として紹介される | 12.25 (日) | 中日 (朝刊) |
| 47 トヨタ自動車株式会社代表取締役副社長 新美篤志氏本学卒業生が強いサプライチェーンの構築について論じる | 12.25 (日) | 日経 (朝刊) |
| 48 現代日本誤百科 (546)：勝負に「大金を突っ込む」町田 健文学研究科教授 | 12.26 (月) | 中日 (朝刊) |
| 49 福和伸夫防災連携研究センター教授は本学主催の高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」で紹介された防災活動について「継続した取り組みを」と述べた | 12.27 (火) | 朝日 (朝刊) |
| 50 訃報：辻 佐保子本学名誉教授 故辻 邦生氏の妻 | 12.27 (火) 12.28 (水) | 朝日 (朝刊) 他2社 読売 |
| 51 現代日本誤百科 (547)：「血を流して殺害されて」いた 町田 健文学研究科教授 | 12.28 (水) | 中日 (朝刊) |
| 52 長野方星工学研究科講師らの研究グループはループヒートパイプの高性能化技術を開発 | 12.28 (水) | 日刊工業 |
| 53 未知の宇宙を探る—チリ・アタカマ高地から：福井康雄理学研究科教授の研究室が設置した小型電波望遠鏡「NANTEN2」がとりあげられる | 12.28 (水) 12.29 (木) 12.30 (金) | 中日 (朝刊) |
| 54 本学はベトナムのホーチミン市法科大学に「日本法教育研究センター」を開設し日本語が堪能で日本法に精通した専門家を育成する | 12.28 (水) | 読売 |
| 55 第3回アカデミーサロン ノーベル物理学賞益川敏英特別教授が贈る特別記念講座「CP対称性とは？」が開催され 益川教授は「何かに憧れることが行動の原動力」と語る | 12.28 (水) | 中日 (朝刊) |
| 56 政府の国際戦略総合特区「アジア No.1航空宇宙産業クラスター形成特区」推進協議会の初会合が開催され本学が出席 | 12.28 (水) | 中日 (朝刊) |
| 57 濱口総長が本部員として参加する「中京独立戦略本部」初会合が来年1月に開催される | 12.28 (水) 1. 5 (木) | 朝日 (朝刊) 日経 (朝刊) |
| 58 第42回全日本学生将棋団体対抗戦：本学が9位 | 12.28 (水) | 朝日 (朝刊) |
| 59 島津康男本学名誉教授は辺野古アセス搬入について「違法ではないがずさんな提出方法で形だけの手続きをなし崩し的に終わらせようとしている」と語る | 12.28 (水) | 中日 (夕刊) |
| 60 国際協同組合年「キックオフイベント」開催：13日 生源寺眞一生命農学研究科教授がパネリストとして出席 | 12.29 (木) | 読売 |
| 61 山本裕二総合保健体育科学センター教授はサッカーの試合中、司令塔が存在し時間帯に応じて切替ることを科学的に実証 | 12.30 (金) | 中日 (朝刊) |
| 62 本学は信州大学との共同研究で学内に小水力発電装置を設置 | 12.31 (土) | 中日 (朝刊) |
| 63 貧困や差別との戦いに力をそそいだ鈴木楯夫氏の評論記事などが附属図書館に保存されている | 12.31 (土) | 中日 (朝刊) |
| 64 新春対談「知」と向き合うで山崎直子氏が本学などの国際共同研究チームによる超光速ニュートリノの検証実験についてコメントする | 1. 1 (日) | 中日 (朝刊) |
| 65 次世代を生きる若者たちへ—愛知県名誉県民からのメッセージ：野依良治本学特別教授 | 1. 1 (日) | 読売 |
| 66 濱口総長 年頭所感「継承と、前進。」 | 1. 3 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 67 論説特集：池内 了本学名誉教授が深田 実氏中日新聞名古屋本社論説主幹と「科学とは何か」について論じる | 1. 3 (火) | 中日 (朝刊) |
| 68 東海住宅地経営協会理事長 馬場研治氏工学研究科元助手 大震災に学ぶ家造り | 1. 3 (火) | 中日 (朝刊) |
| 69 現代日本誤百科 (548)：かつての権力者も今は「裸の王様」町田 健文学研究科教授 | 1. 4 (水) | 中日 (朝刊) |
| 70 田島宏康太陽地球環境研究所教授は本学などが開発に関わる小型衛星「ChubuSat-1 (通称・金鯱衛星1号)」について「衛星を安く速く造ることができれば挑戦的な研究の需要は増えるはず」と語る | 1. 4 (水) | 朝日 (朝刊) |
| 71 本学の理系女子学生がつくるコミュニティ「あかりんご隊」が主催するイベント「リケジョ交流会」が紹介され、本学の女性研究者の採用加速・育成プログラムへの取り組みが取り上げられる | 1. 4 (水) | 毎日 (朝刊) |
| 72 鈴木垂由子さん本学学生の陸上中長距離への取り組みが紹介される | 1. 4 (水) | 中日 (朝刊) |
| 73 現代日本誤百科 (549)：問題が「自己解決」した 町田 健文学研究科教授 | 1. 5 (木) | 中日 (朝刊) |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年12月15日～平成24年1月15日]

| 記事 | 月日 | 新聞等名 |
|--|----------------------|--------------------|
| 74 東海の新成長産業「航空宇宙」世界の拠点へ 複合材工学研究センターにおける中小企業の研究開発支援が取り上げられる | 1. 5 (木) | 読売 |
| 75 iPS細胞の主な研究として本学の血管再生治療法の開発が取り上げられる | 1. 5 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 76 知の拠点に産学行政共同研究開発施設「あいち産業科学技術総合センター」オープン：2月14日 益川敏英本学特別教授が記念講演 | 1. 5 (木) 1. 7 (土) | 中日 (朝刊) 読売 |
| 77 第16回1.17震災フォーラム「東海地方に迫り来る巨大地震・津波に備えてー自治体・地域・家族ができることー」開催：14日 川崎浩司工学研究科准教授が講演 | 1. 5 (木) | 中日 (朝刊) |
| 78 紙つぶて：偶然の大発見 篠原久典理学研究科教授 | 1. 5 (木) | 中日 (夕刊) |
| 79 日経らいふプラス：乳がん治療法使い分け 医学部附属病院の実績がとりあげられる | 1. 5 (木) | 日経 (夕刊) |
| 80 河村雅隆国際言語文化研究科教授は東海テレビ放送が不適切テロップ問題の再発防止策として設置する「オンブズ東海」の委員に選出される | 1. 6 (金) | 中日 (朝刊) 他2社 |
| 81 森川高行環境学研究科教授はリニア中央新幹線開通に関して「ストロー現象を防ぎ他地域から人を呼び込むため名古屋圏の魅力を高める方策を次々にプロジェクト化して進めるべき」と語る | 1. 6 (金) | 中日 (朝刊) |
| 82 本学などで8月に2012年日本語教育国際研究大会が開催される | 1. 6 (金) | 中日 (朝刊) |
| 83 減災連携研究センターシンポジウムが開催され福和伸夫同教授は「継続的に減災研究を続けられる組織にしたい」と語る | 1. 7 (土) | 中日 (朝刊) |
| 84 小田洋一理学研究科教授らの研究グループはアフリカの湖に生息する魚に右利き左利きがいることを解明 | 1. 7 (土) | 中日 (朝刊) 日経 (朝刊) |
| 85 中村光廣現象解析研究センター准教授らの研究グループは素粒子で福島第一原発の原子炉の内部を撮影する技術の実用化に取り組む | 1. 8 (日) | 中日 (朝刊) 読売 |
| 86 本学がX線天文衛星「ASTRO-H」の部品を発注する株式会社蒲郡製作所が取り上げられる | 1. 8 (日) | 読売 |
| 87 病院の実力 愛知編48：泌尿器科がん 医学部附属病院の治療実績が紹介される | 1. 8 (日) | 読売 |
| 88 久米太郎さん本学大学院生が読売文章教室を受講し、「インタビューを通し、魅力的な話を引き出せるか、それが文章を書く上で欠かせないことを肌で感じた」と語る | 1. 8 (日) | 読売 |
| 89 「学生能・狂言の会」が7日に開催され名古屋学生能楽連盟会長の杉野かよこさん本学学生は「学生による能をもっと多くの人に知ってもらいたい」と話す | 1. 8 (日) | 中日 (朝刊) |
| 90 現代日本訳百科 (550)：この辺りの「土地勘に詳しい」町田 健文学研究科教授 | 1. 9 (月) | 中日 (朝刊) |
| 91 太田裕道工学研究科准教授らの研究グループは熱電材料の新しい性能評価技術を開発 | 1. 9 (月) | 日刊工業 |
| 92 現代日本訳百科 (551)：「連立政権樹立へ向けて」協議 町田 健文学研究科教授 | 1.10 (火) | 中日 (朝刊) |
| 93 現代日本訳百科 (552)：「カードを触れて」ください 町田 健文学研究科教授 | 1.11 (水) | 中日 (朝刊) |
| 94 古川鋼一医学系研究科教授らの研究グループは細胞と細胞外をつなぐ新しい糖類の「N-アセチルグルコサミン」を発見 | 1.11 (水) | 日刊工業 |
| 95 濱口総長が本部員を務める中京独立戦略本部について、愛知県は会合を年6回程度開き、新年度予算には1700万円計上する方針を決めた | 1.11 (水) | 朝日 (朝刊) |
| 96 現代日本訳百科 (553)：「車庫に引き上げる」町田 健文学研究科教授 | 1.12 (木) | 中日 (朝刊) |
| 97 教育発達科学研究科長に早川 操同教授を再任 | 1.12 (木) | 朝日 (朝刊) |
| 98 紙つぶて：基礎研究の重み 篠原久典理学研究科教授 | 1.12 (木) | 中日 (夕刊) |
| 99 平成23年度環境保全功労者等環境大臣賞受賞 松田仁樹工学研究科教授、竹中千里生命農学研究科教授、海津正倫本学名誉教授 | 1.13 (金) | 読売 |
| 100 学術研究懇談会「RU11」はリサーチアドミニストレーターに対するスキル標準を作成する | 1.13 (金) | 日刊工業 |
| 101 吉見日出明入試課長は入試の不正防止に関して「携帯電話は災害時の連絡手段。受験生の良心に期待したい」と語る | 1.13 (金) | 読売 |
| 102 日経らいふプラス：前立腺がん治療法 医学部附属病院の治療実績がとりあげられる | 1.12 (木) | 日経 (夕刊) |
| 103 博物館体験ワークショップ「石器から学ぶ文化と自然ー顕微鏡で見る石器」開催：2月11日 | 1.13 (金) | 中日 (朝刊) |
| 104 名古屋大学レクチャー2012公開講演会「日本文学と日本文化をめぐって語る」開催：2月11日 ドナルド・キーン氏コロンビア大学名誉教授が講演 | 1.13 (金) 1.14 (土) | 毎日 (朝刊) 中日 (朝刊) |
| 105 川田 稔環境学研究科教授は「昭和陸軍の軌跡」を刊行 | 1.14 (土) | 朝日 (夕刊) |
| 106 山岡耕春環境学研究科教授が母校の大垣東高校で地震やマグマをテーマに講義及び実験を行う | 1.14 (土) | 岐阜 (朝刊) |
| 107 叙位叙勲：正六位瑞宝双光章 榊原義信氏元教育学部事務長 | 1.14 (土) | 読売 |
| 108 名誉県民が語る：元愛知県知事 鈴木礼治氏本学卒業生 | 1.14 (土) | 中日 (朝刊) |
| 109 2012年成長に挑む：海外で標準品量産 ノリタケカンパニーリミテド代表取締役社長 種村 均氏本学卒業生 | 1.14 (土) | 日経 (朝刊) |
| 110 シンポジウム「福島原発事故をめぐるコミュニケーション」開催：2月3日 中村登志哉国際言語文化研究科教授がモデレーターを務める | 1.14 (土) | 日経 (朝刊) |
| 111 センター試験 カンニング対策 本学の試験会場では監督者が携帯電話など電子機器の電源を切って足元のかばんにしまうよう受験生に繰り返し指示する | 1.14 (土) 1.15 (日) | 朝日 (朝刊) 読売 (朝刊) |
| 112 名誉県民が語る：トヨタ自動車株式会社名誉会長 豊田章一郎氏本学卒業生 | 1.15 (日) | 中日 (朝刊) |

平成23年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、1月20日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

| 所 属 | 氏 名 | 職 名 | 月 日 | 時 間 | 場 所 | 講義題目 | 問い合わせ先 | 備 考 |
|-----------|-------|----------|----------|--------------------|------------------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 産学官連携推進本部 | 笠原久美雄 | 教授 | 実施しない | | | | | |
| 文学研究科 | 春日 豊 | 教授 | 2月16日(木) | 15:00~16:00 | 文学部237講義室 | 日本の1930年代と現在 -歴史の分岐点の視座から- | 文系総務課総務グループ (文学担当) 052-789-2202 | |
| | 江村 治樹 | 教授 | 3月6日(火) | 13:30~15:00 | 文学部237講義室 | 中国古代都市の実像を求めて -文献史学と考古学の間で- | 文系総務課総務グループ (文学担当) 052-789-2202 | |
| | 高橋 亨 | 教授 | 3月16日(金) | 16:30~18:00 | 文学部237講義室 | 物語学の課題 | 文系総務課総務グループ (文学担当) 052-789-2202 | |
| 教育発達科学研究科 | 速水 敏彦 | 教授 | 1月25日(水) | 14:00~15:45 | 教育学部大講義室 | 動機づけ研究の歩みと到達点 ~さて、上がってきたのか、下ってきたのか~ | 高井次郎教育発達科学研究科教授 052-789-2653 | |
| 法学研究科 | 磯部 隆 | 教授 | 実施しない | | | | | |
| 経済学研究科 | 佐藤 倫正 | 教授 | 3月2日(金) | 14:30~16:00 | 法経共用館1階 第2講義室 | 資金会計の国際的展開 | 文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-4920 | |
| 理学研究科 | 富松 彰 | 教授 | 3月5日(月) | 13:40~14:40 | 理学部 B5講義室 (B館501号室) | ブラックホールの物理 | 庶務掛 052-789-2395 | |
| | 鈴木 順三 | 教授 | 3月5日(月) | 15:00~16:00 | 理学部 B5講義室 (B館501号室) | 有機導体の研究をふりかえって | 庶務掛 052-789-2395 | |
| | 町田 泰則 | 教授 | 3月2日(金) | 14:30~15:30 | 理学南館大講堂 (坂田・平田ホール) | 植物細胞の増殖と分化：コインの表と裏か？ | 庶務掛 052-789-2395 | |
| | 尾張部克志 | 教授 | 3月2日(金) | 11:00~12:00 | 理学南館大講堂 (坂田・平田ホール) | 細胞の運動・骨格・接着 | 庶務掛 052-789-2395 | |
| | 前田雄一郎 | 教授 | 3月2日(金) | 13:00~14:00 | 理学南館大講堂 (坂田・平田ホール) | 蛋白質間相互作用のおもしろさ、奥深さ： アクチン研究の現場から | 庶務掛 052-789-2395 | |
| 医学系研究科 | 那須 民江 | 教授 | 3月29日(木) | 16:00~17:30 | 基礎医学研究棟3階 第1講義室 | 環境と健康の調和 ~分子から社会へのアプローチ~ | 内藤久雄医学系研究科 助教 052-744-2125 | 連絡取れない場合： 総務課総務第一掛 052-744-2500 |
| | 青山 隆彦 | 教授 | 3月8日(木) | 14:00~14:55 | 医学部保健学科東館 大講義室 | 放射線計測の基礎と応用研究 -或る研究職人40年の歩み | 大幸地区事務統括課 庶務掛 052-719-1504 | |
| | 小幡 康範 | 教授 | 3月8日(木) | 15:05~16:00 | 医学部保健学科東館 大講義室 | 原体照射法の研究を振り返って | 大幸地区事務統括課 庶務掛 052-719-1504 | |
| 工学研究科 | 鈴木 憲司 | 教授 | 実施しない | | | | | |
| | 高井 治 | 教授 | 3月9日(金) | 13:00~14:30 | ES 総合館1階 ES ホール | 新材料・新材料プロセスの開発 | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 中村 新男 | 教授 | 3月2日(金) | 16:10~17:25 | IB 電子情報館2階 大講義室 | 光と物質の関わりから学ぶこと | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 井上順一郎 | 教授 | 3月2日(金) | 14:35~15:55 | IB 電子情報館2階 大講義室 | 応物40年 | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 河野 明廣 | 教授 | 3月13日(火) | 15:00~ | IB 電子情報館1階 015講義室 | 分光計測とプラズマエレクトロニクスの学術基盤 形成 | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 谷本 正幸 | 教授 | 3月9日(金) | 15:00~17:00 | IB 電子情報館2階 大講義室 | 究極の映像メディアを目指して | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 石田 幸男 | 教授 | 2月24日(金) | 16:00~17:30 | ES 総合館1階 ES ホール | 9+37年をふり返って | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 上田 哲彦 | 教授 | 3月8日(木) | 16:00~ | 工学部2号館2階 241講義室 | 振り返る | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 竹田 美和 | 教授 | 2月28日(火) | 15:30~17:00 | IB 電子情報館2階 大講義室 | 化合物半導体-結晶成長からデバイスまで- | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| | 佐藤 一雄 | 教授 | 2月22日(水) | 15:00~16:30 | ES 総合館1階 ES ホール | 単結晶シリコンを対象としたマイクロ機械理工学 研究 | 総務課総務掛 052-789-3402 | |
| 椿 淳一郎 | 教授 | 3月19日(月) | 14:30~ | ES 総合館1階 ES ホール | 私の通信簿-大学人たり得たか- | 総務課総務掛 052-789-3402 | | |
| 生命農学研究科 | 服部 重昭 | 教授 | 2月13日(月) | 15:15~16:00 | 生命農学研究科 第12講義室 | 森林流域における水循環の解明を目指して | 庶務掛 052-789-5266 | |
| | 小林 迪弘 | 教授 | 2月13日(月) | 13:35~14:20 | 生命農学研究科 第12講義室 | カイコとウイルスと一粒の繭 | 庶務掛 052-789-5266 | |
| | 木村 真人 | 教授 | 2月13日(月) | 14:25~15:10 | 生命農学研究科 第12講義室 | 40年の水田土壌研究を振り返って | 庶務掛 052-789-5266 | |

| 所 属 | 氏 名 職名 | 月 日 | 時 間 | 場 所 | 講義題目 | 問い合わせ先 | 備 考 |
|------------------|----------|----------|-------------|----------------------------------|--|---------------------------------------|-----------------|
| 国際開発研究科 | 長田 博 教授 | 2月10日(金) | 10:30~12:00 | 国際開発研究科8階 多目的オーデトリウム | Interactions between Development Economics and the Japanese Economy: Retrospect and Prospect (開発経済学と日本経済をめぐって: 回顧と展望) | 文系総務課総務グループ (国開担当) 052-789-4952 | |
| | 木村 宏恒 教授 | 2月10日(金) | 13:00~14:15 | 国際開発研究科8階 多目的オーデトリウム | Pursuing the Critical Role of Government in Development | 文系総務課総務グループ (国開担当) 052-789-4952 | |
| | 二村 久則 教授 | 2月17日(金) | 10:30~12:00 | 国際開発研究科8階 多目的オーデトリウム | 麻薬学への道しるべ | 文系総務課総務グループ (国開担当) 052-789-4952 | |
| 多元数理科学 研究科 | 庄司 俊明 教授 | 3月14日(水) | 13:00~14:00 | 多元数理科学棟 (理1号館) 5階509号室 | Characters, character sheaves and beyond | 教育研究支援室 052-789-2833 | |
| 国際言語文化 研究科 | 飯田 秀敏 教授 | 実施しない | | | | | |
| 環境学研究科 | 田上英一郎 教授 | 実施しない | | | | | |
| | 川田 稔 教授 | 1月25日(水) | 13:00~14:30 | 全学教育棟 S20講義室 | 浜口雄幸の国際秩序構想 | 増沢陽子准教授 052-789-4863 | |
| | 木股 文昭 教授 | 3月23日(金) | 16:15~17:15 | 環境総合館1階 レクチャーホール | 二万人の視線を感じながら次の巨大地震に備える | 寺川寿子助教 052-789-5389 | |
| 情報科学研究科 | 阿草 清滋 教授 | 3月6日(火) | 15:00~16:30 | IB 電子情報館2階 大講義室 | ソフトウェア工学持論 | 庶務掛 052-789-4716 | |
| 太陽地球環境 研究所 | 菊池 崇 教授 | 3月1日(木) | 15:00~16:30 | 高等研究院1階 カンファレンスホール | 宇宙天気研究をふり返って | 研究所総務課 052-747-6303 | |
| 地球水循環研究 センター | 安成 哲三 教授 | 3月14日(木) | 15:30~17:00 | 名古屋マリオット アソシアホテル 16階(ボールⅢ) | 地球学をめざして | 藤波初木助教 052-789-3474 | 15:00から受付 開始 |
| 年代測定総合 研究センター | 鈴木 和博 教授 | 3月10日(土) | 15:30~17:00 | 環境総合館1階 レクチャーホール | EPMA が拓いた岩石学 | 庶務掛 052-789-2395 | |

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月6日(火)～2月29日(水)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

第22回博物館企画展「奈良坂源一郎『蟲魚圖譜』
—解剖学創始者のミュージアム—」



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

12月6日(火)～2月29日(水)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

現代の博物画
ボタニカルアート作品展

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

2月6日(月)～3月23日(金)

場 所：野外観察園展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日曜日および祝日
入 場 料：無料

博物館サテライト展示
「東山キャンパスの野鳥写真展」

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

2月15日(水)

場 所：日本経済新聞社名古屋支社
3階会議室(名古屋市中区)
時 間：18:00～19:30

第14回名古屋ビジネスセミナー
講演題目：「最近の財政・金融情勢について」
講 演 者：池田篤彦氏(近畿財務局長)



[問い合わせ先]
経済学研究科
附属国際経済政策研究センター
052-789-4945

2月18日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート「早春の音楽会」
演奏曲目：「弦楽四重奏曲第10番 op.74『ハーブ』より」ベートーヴェン、
「アヴェ・マリア」シューベルト、
「弦楽四重奏のための4つの小品 op.81より」メンデルスゾーン、
「ジョン・カム・キス」バード、他
出 演：「カルテットフリーセント」
小松菜央氏(第1バイオリン)、福居由花氏(第2バイオリン)、
小松 大氏(ピオラ)、佐藤 光氏(チェロ)



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

2月20日(月)～2月22日(水)

場 所：文学研究科大会議室
時 間：13:30～18:00
対 象：一般
参 加 費：無料

グローバルCOE「テキスト布置の解釈学的研究と教育」
西洋中世(ラテン語)・近世フランス古文書学ワークショップ
テ ー マ：「西洋の手稿記録(4世紀から18世紀)を読む」
Lire les manuscrits occidentaux, du IVe au XVIIIe siècle
内 容：ジャン＝ルー・ルメートル博士とニコル・ルメートル教授による連続講義
とワークショップ。講義や討論は基本的にフランス語で通訳なし。

[問い合わせ先]
文学研究科 GCOE 事務室
bureau@gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月25日(土)

場 所：西尾市岩瀬文庫地階研修ホール
(西尾市亀沢町)
時 間：12:30~16:30

国際言語文化研究科 教育研究プロジェクト
「メディアを巡る文化創造とその展開および発展」



[問い合わせ先]

国際言語文化研究科
伊藤研究室 052-789-5282

2月25日(土)~2月26日(日)

場 所：名古屋市科学館 (2/25)、
蒲郡市生命の海科学館他 (2/26)
時 間：14:00~16:30 (2/25)、
9:00~16:00 (2/26)
定 員：30名
対 象：小学3年生から中学3年生と
その保護者
(中学生以上は個人参加可)
参加費：1名あたり1,000円

第4回地球教室「鉱物をさがそう！」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

2月27日(月)

場 所：大府市勤労文化会館
(大府市明成町)
時 間：14:00~16:00 (予定)
対 象：一般
参加費：無料

環境学研究科しんきん環境事業 イノベーション寄附講座
第2シリーズ第8回講演会

講演題目：「環境配慮行動の普及と合意形成」
講演者：杉浦淳吉氏 (愛知教育大学准教授)
講演題目：「わが国における洋上風力発電の普及について」
講演者：安田公昭 (環境学研究科寄附講座教授)

[問い合わせ先]

環境学研究科 052-747-6550

2月27日(月)~2月28日(火)

場 所：環境総合館1階
レクチャーホール
時 間：9:45~16:30 (2/27)、
9:00~19:00 (2/28)

グローバル COE「地球学から基礎・臨床環境学への展開」
国際シンポジウム

テ ー マ：「アジアにおける臨床環境学研究の展開」

[問い合わせ先]

GCOE 事務局 052-747-6521

3月3日(土)

場 所：ES 総合館他
時 間：10:00~17:00
参加費：無料

大学教育改革フォーラム in 東海2012

内 容：講演、オールセッション、ポスターセッション、
パネルディスカッション
講演題目：「震災後の日本社会と大学教育」
講演者：野家啓一氏 (東北大学理事)



[問い合わせ先]

高等教育研究センター
助教 齋藤芳子 052-789-5696

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月4日(日)

場 所：医学部保健学科東館 4階大講義室
時 間：13:30～16:30
参 加 費：2,000円 (全4回)

平成23年度

がんを生き抜くライフトピアスクール

内 容：「明るく病氣と向き合う」、「修了式」

[問い合わせ先]

医学部保健学科 GP 事務室

052-719-3158

3月10日(土)～4月14日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
3月11日(日)は臨時開館
入 場 料：無料

第23回博物館企画展

「吉崎 誠 海藻コレクション 震災と標本レスキュー」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月17日(土)～8月31日(金)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

第16回博物館特別展「大モンゴル展」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月18日(日)～3月20日(火)

場 所：ES 総合館 6階講義室
時 間：9:00～17:00 (3/18、20)、
9:00～18:00 (3/19)

素粒子宇宙起源研究機構

ミニワークショップ

テ ー マ：「Conformality in Strong Coupling Gauge Theories at LHC and Lattice」

[問い合わせ先]

素粒子宇宙起源研究機構

SCGT12Mini@kmi.nagoya-u.ac.jp

名大トピックス No.224 平成24年2月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

南部食堂

(平成24年1月18日)



118 第11代総長 ^{まつお}松尾 ^{みのる}稔 — 名大をひきいた人びと⑬ —

第11代総長の松尾稔は、1936(昭和11)年、京都府に生まれました。京都大学工学部土木学科を卒業、62年に同大学大学院を修了と同時に助手となり、講師、助教授をへて、72年に名古屋大学工学部助教授に就任しました。78年に教授となり、工学部長、理工科学総合研究センター長などを務めたのち、98(平成10)年4月、総長に就任しました。学界では、日本工学アカデミー理事、土木学会会長などを歴任し、2003年には土木学会功績賞をうけています。

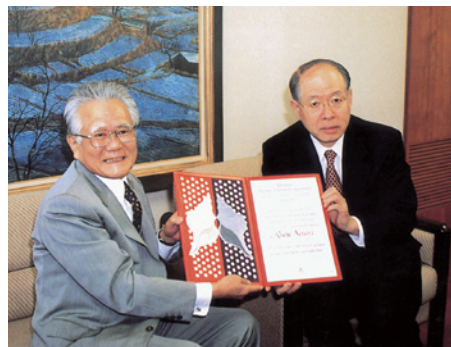
松尾総長は就任にあたって、現在が学術のあり方のパラダイム転換期であるとし、「先端性と調和」を同時に追求するためにも、本当の意味での総合大学として、文系・理系の連携・協力が必要であると述べ、政府の行財政改革によって大学改革・定員削減・法人化が求められるなか、大学運営に乗り出しました。

組織面では、加藤総長時代にはじまった大学院重点化が文系にもおよび、2000(平成12)年度には全ての研究科で完

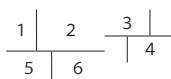
了しました。任期の後半には、大学院環境学研究科を新設するとともに、全国の大学に先駆けた、部局を超えた研究専念組織である高等研究院など、多くの研究センターや研究施設の設置がおこなわれました。建物の面では、IB電子情報館、医学部校舎1号館、文系総合館、環境総合館、高等総合研究館などが竣工しています。

そして2000年には、2年間の全学的な検討をうけて、大学の基本理念と長期的な目標を掲げた「名古屋大学学術憲章」を、全国に先駆けて制定しました。同時に、数年を見すえた中期目標ともいえるものとして、「名古屋大学アカデミックプラン」を策定しました。02年には、豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長を会長として、全学同窓会が設立されました。

名古屋大学の名を世界にとどろかせた、2001年の野依良治教授のノーベル賞受賞も、松尾総長の時代です。



- 1 松尾稔第11代総長(1936-)。現在は、(財)名古屋都市整備公社名古屋都市センター長を務めている。
- 2 2002年の名古屋大学国際フォーラムにおいて、名大に本部を置く国際学術コンソーシアム(AC21)が設立された。ほぼ同じ時期に、留学生センターや国際喫煙館も竣工した。
- 3 留学生センター(2001年竣工)



- 4 国際喫煙館(2002年竣工)
- 5 第42回国立七大学総合体育大会(七大戰)総合優勝の祝勝会にて、学生たちに胴上げされる松尾総長(2003年)。
- 6 松尾総長にノーベル賞授賞式からの帰国報告をする野依教授(2001年、名大にて)。